

ASIRU アシル

令和5年8月31日発行 第15号



単元（題材）を見通して、適切な評価規準の設定を

教育局では、日常的な授業改善や校内研修の充実に向けた「オンライン相談」を実施しているところです。相談では、多くの学校が「単元（題材）を見通して、適切な評価規準を設定すること」に難しさを感じていたことから、「授業改善特集号」第1段として、『指導と評価の一体化』に向けた学習評価に関する参考資料～小学校国語～に掲載されている実践を基に、評価規準の設定等について紹介します。

事例3：【第5学年 C 読むこと】単元名 読書に関する情報を読んで活用しよう

STEP 1 教材の特徴を把握し、育成を目指す資質・能力を明確にする。



- ①当該教材の特徴を踏まえ、小学校学習指導要領解説～国語編～p146等を参照し、C(1)の中から重点を置いて指導する指導事項を選択します。
- ②小学校学習指導要領解説～国語編～p115～131等を参照しながら、どのような【知識及び技能】を活用させることで、選択したC(1)の指導事項の定着が図られるかを十分に検討し、【知識及び技能】の指導事項を決定します。

1 単元の目標

- (1) 文章の構成について理解することができる。 [知識及び技能] (1) カ
- (2) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- (3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1) ウ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]



小学校学習指導要領解説～国語編～p14等を参照しながら、指導する学年の目標を設定します。目標の記載に「読書をする」という記載がありますが、【学びに向かう力、人間性等】は、年間を通して育成することから、「話すこと・聞くこと」「書くこと」においても同内容で目標を設定します。



共通教材は、「地域の最新の情報が掲載される新聞記事」を取り上げています。本教材は、**重要な事柄を見出して示すとともに、リード文から本文へと次第に詳しく書かれている**という特徴があります。この特徴から、C(1)ウを指導することに適していると判断しています。

また、児童が「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」ためには、**文章の構成について理解したり、情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使ったりする力**が必要です。このような【知識及び技能】と【思考力、判断力、表現力等】の**関係性を十分に把握した上で**、目標を設定しています。

STEP 2 指導事項を指導するために、最も適した言語活動を取り上げる。

2 取り上げる言語活動

学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動 C(2)ウ



言語活動を取り上げる際は、小学校学習指導要領解説～国語編～p151等を参照し、C(2)から、当該単元で指導する指導事項を指導するために**最も適した言語活動**を選択します。

右図のように、「指導する指導事項」「教材の特徴」「取り上げる言語活動の特性」の**整合性を十分に検討し**、取り上げましょう。



STEP 3 取り上げた言語活動を「児童の言語意識」が働くように具体化する。



本実践では、取り上げた言語活動を、「読書推進に関する取組について、複数の情報を読み、図にまとめる」という具体化を図っています。その際、児童が粘り強く取り組んだり、自身の学びを調整したりしながら課題を解決することができるよう、児童の「言語意識」を大切にした具体化が重要です。下の図のように整理しましょう。

言語意識	言語意識の具体
目的意識	読書推進に関する取組について複数の情報を読み、取組の内容について図にまとめ、自分の考えを発信する。
相手意識	学年や学級内の仲間
方法意識	図
場面・状況・条件意識	自校における読書の取組に課題がある 自校における読書の取組を充実させるために必要なことは何か
評価意識	新聞記事等の情報の扱い方について理解し、自校における読書の取組の充実に向けて、情報を活用することができたか。



言語意識を整理して言語活動を具体化することは、右図のように、課題の解決というゴール（山の頂上）に向けて、自身の活動の進捗や達成状況を振り返る指針を明確にすることにつながります。

言語意識のいずれかに欠落がある場合、児童の粘り強く取り組んだり、学びを調整したりする姿が表出しづらくなり、「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることが難しくなります。

単元を通して位置付ける言語活動



STEP 4 3 観点の関係性を適切に把握し、評価規準を設定する。



本実践では、特に粘り強さを発揮してほしいこと、学びを調整して取り組んでほしいことを、他の2観点と関連させて設定しています。

一見、「知識・技能」との関わりのみ（赤フォント）に見えますが、「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現」と一体的に捉えて見取ることから、「知識・技能」を活用して「思考・判断・表現」する姿（青フォント）への粘り強さと学びを調整する姿をイメージして設定しています。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成について理解している。 ②情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	①「読むこと」において、目的に応じて、 <u>文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。</u>	①粘り強く、 <u>情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使い、学習課題に沿って、情報を読んで活用しようとしている。</u>



評価規準を設定する際、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の関係性を適切に捉えることが大切です。

本実践では、上の表のように、単元を見通してどのような過程で児童に指導事項を身に付けさせ、評価規準に記載する姿を表出させていくかをイメージした後、「4 指導と評価の計画（全6時間）を作成しています。



目標や評価規準を設定する際は、「学習指導要領」と「指導と評価の一体化」に向けた学習評価に関する参考資料」を基に目標や評価規準を設定するなど、育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、単元（題材）を見通した指導と評価を意識しましょう。

<義務教育指導班からお知らせ>

本号では、国語科における単元を見通した評価規準の設定等について紹介させていただきました。次号では、算数科について紹介する予定です。

自校の授業改善等に向けて、是非、オンライン相談を御活用ください。相談に係るお問い合わせは、下記までお願いします。（担当：主任指導主事 齋 0154-43-9283）